

2020年4月3日緊急ウェブセミナー「テレワーク環境で推進するリスク管理・内部統制・内部監査活動」ご質問とプロティビティの回答

No.	頂いたご質問	Protiviti回答
1	講演者とキャッチボールで、選択式質問で参加者意見の集約している方法につき教えてください。	プロティビティのWebinarは、プロティビティがライセンスをもっているON24というWEBセミナーシステムが提供する機能を活用して講演者とキャッチボールで選択式質問で参加者意見の集約を行っています。
2	Mentimeter のライセンス料はおおよそいくらでしょうか。	無料のトライアルから、Basic, PROとライセンス料が異なります。英語のサイトしかありませんが、Mentimeterのサイトでご確認ください。 https://www.mentimeter.com/
3	モニタリングで個人情報取得の問題をどう扱うのでしょうか。	各社の情報セキュリティルール、監査規程等にもよりますが、氏名をマスキングする、データを管理する端末やエリアを制限するなどが考えられます。海外の一部の国においては各国のルールで取得できない情報があるケースも考えられます。
4	先程のHighbondの製品は、Galvanize Roboticsでしょうか。	データ分析の中で紹介していたHighBondのモジュールはGalvanize社のHighBond Roboticsです。
5	紹介していただいたツールはお試しプログラムがあるのでしょうか。	お試しプログラムがあるものも、無いものもあります。Mentimeterなどは無料のトライアルもあります。ほかはツールによって異なるので、アンケートで興味が多かったものに対しては、別のセミナーを企画しますので、その際にご紹介します。
6	GRCツールを使ったCSAでよく実施されている評価内容を教えてください。	今回は、コロナ対応の日々の従業員の健康状態のセルフアセスメントの活用事例として紹介しましたが、通常では、GRCツールですので、Governance, Risk Management, (Internal)Controlの分野で活用されています。リスクの評価や、全社的統制の評価、セキュリティ状況のセルフアセスメントへの活用もよく見ます。また、最近では外部委託先の統制状況を確認するためにも活用されています。
7	それぞれのツールを使いたい場合は、どの程度導入期間が必要ですか。	いくつかのツールを紹介したので、どのツールかによっても異なります。ツールによっては、自社で導入する際に数か月かかるものもあります。今回紹介したのは、すでにプロティビティがライセンスをもってプロジェクトの中で提供しているものですので、一緒にプロジェクトをする場合はすぐに活用できるものです。
8	データ分析に関する質問： データ監査においても、往査は必要なのではないか。シナリオにヒットしたエラーが必ずしも統制の不備とは限らないのではないか。 エラーの背景の確認のためのヒアリングや、データで確認できない上の証憑類の確認のために往査が必要だと考える。	データ分析の結果については、すべてを監査部門が往査で対応するのではなく、2線部署への提供、現場CSAでの確認などもされることを推奨しています。監査部門が対応する場合でも、往査をするか否か、監査手続きや証憑としてどのレベルまで実施・要求するかは重要性に応じて判断されることかと思えます。
9	例えば交際費、旅費のデータ分析で不適切な取引を発見するというのは、具体的にどのポイントを見る、分析をすることで発見できるのでしょうか。	交際費であれば、金額、日付、費目、参加者、場所(お店)、摘要欄の記載など、あらゆる項目を単独及び組み合わせでチェックします。旅費であれば、金額、日当、移動距離、移動手段、行き先、曜日などがあります。また、購買や売上の分析と組み合わせることもあります。細かいデータが取得できなくても財務諸表レベルでも十分な分析ができるケースもあります。
10	NINTEXツールは通常のインターネット環境があれば使用できますか。大容量が必要となりますか。費用はいくらですか。	はい、NINTEXツールは通常のインターネット環境があれば使用できます。プロティビティはクライアントとのプロジェクトで活用していますが、直接販売はしていません。ご紹介したのはNintex Promappというツールです。自社での活用を検討する場合の費用は、NINTEXにお問い合わせください。 https://www.nintex.jp/
11	ハイボンドについて、興味がございますが、カタログデータなどはHPからダウンロードになりますでしょうか。	HighBondのERMへの活用 https://www.protiviti.com/JP-jp/insights/digital-erm HighBondの内部監査への活用 https://www.protiviti.com/JP-jp/insights/highbond-ia を参考にしてください。Galvanize Japanが現在カタログなどを日本語で準備していますので、次回のセミナーで紹介いたします。

No.	頂いたご質問	Protiviti回答
12	本日ご紹介いただいたようなツールを導入する際のコストイメージをお聞かせください。	ご紹介したツールによって導入コストは異なります。例えば、内部監査デジタルツールとしてご紹介したHIGHBONDは、ユーザ数に応じた年間の利用料に加えて、導入支援費用が必要となります。最低利用ユーザ数であっても、導入の総費用は300万円程度から1,000万円以上かかる場合までお客様のご利用要件によって様々です。導入費用が必要なく、ツールの利用料のみで導入可能なツールもございます。今回ご紹介したデジタルツールは弊社のコンサルティングサービスに組み込んでご利用いただくことが可能なものをご紹介しております。また、POCとして導入検討を想定したご支援もご用意しておりますので、費用につきましては、弊社営業担当にお気軽にご相談ください。
13	クラウドベースの内部監査に関する質問 過去データを閲覧できるようにするためにある程度のストレージ容量が要求されると思います。格納容量に上限はありますか。 また、安価なクラウドストレージに保管したものを参照できるような構成は組めますか。	内部監査デジタルツールとしてご紹介したHIGHBONDにつきまして、利用料はサブスクリプションとしてユーザ数に応じて設定されます。特別な容量制限が必要となるような利用方法につきましては、サービスを提供するGalvanize社への確認を要します。特定の要件につきましては、別途ご相談ください。 また、他社のクラウドストレージへの保管を想定した構成でのサービス提供は実施されていません。
14	HighBondの利用状況は？	製造業や製薬会社、小売りなど幅広い業界にて、HighBondをご活用頂いております。
15	監査用ツールと言っても、機能は一般的なツールと異なるのでしょうか？一般的なツールと比較して利用者が少ない「監査用ツール」を利用するメリットを教えてください。	トレンドとして、監査の進め方をよりインベティブにしていこうと出ています。監査管理ツールを活用することにより、監査結果を容易にビジュアライズしたり、データ分析と連動させて、多くの監査活動をワンプラットフォームで完結させることが可能です。またクラウド製品ですので、今後AIなどの機能が搭載されることも期待でき、より監査をダイナミックにしていけることが可能となります。
16	HighBond導入のために必要な予算を教えてください。	部門の規模や導入目的などにより、金額の幅がありますので、個別にお話をお伺い致します。
17	HighBondのデモはいつでもやっていただけるのでしょうか。	今回、アンケートにて、興味が高かったツールについて、別途デモも含めたプライベートセミナーを企画中です。また、貴社とお付き合いのある弊社担当者に個別にお問い合わせいただければ、オンラインデモをアレンジいたしますので、お気軽にご相談ください。
18	監査役監査のデジタルツールが構築出来たら画期的ですね！リスクマネジメントや内部監査と協働していくのが現実的なアプローチと考えています。	コメントありがとうございます。おっしゃる通り、単独での構築よりも、内部監査やリスクマネジメントで導入して、監査役も一緒に活用していただくのが現実的なアプローチですね。
19	当社では先進的なツールが導入されていますが、いまいち活用されていません。どのようにすれば活用できるようになるのでしょうか	ツールの導入は、技術面だけでなく、活用する人たちのマインドセットとコミットメントも重要です。コミットメントを得るために、ツール導入に対する「関心」「理解」「協力」「コミットメント」を得ていく、チェンジマネジメントのプロセスを再度見直してはいかがでしょうか？
20	既存の社内のACL Script及びそのプロダクト群を取り込むことは可能でしょうか。	同じGalvanizeの製品ですので、取り込みが可能です。製品仕様の詳細については、Galvanize社にお問い合わせいただければと思います。活用方法などの実践的なアドバイスについては弊社でも提供しておりますので、ご相談ください。
21	いまこんな状況で新たに例えばNINTEXを導入したいとかいうとどんな形になりますか。リモートでということになりますか。HighBONDなどは、ACLを導入していればその延長線上ですすむのでしょうか	NINTEXの活用方法によって導入支援方法は変わります。また、弊社のコンサルティングサービスの一環として利用する場合は、貴社としての導入を現時点で必ずしも必要とするものではありません。例えば、ヒアリングを通じて弊社でNINTEXに業務フローを可視化するような場合は、WEB会議を併用して導入することも可能です。訪問等の行動が規制される中では、リモートワークによるPOCとして検討を進め、活動規制が解除されたのちに本格導入をすすめるという方法も可能です。 また、内部監査デジタルツールであるHIGHBONDは、データ分析に活用されているACL製品（Analytics等）と別のプロダクトとなりますので、改めて導入を実施する必要があります。
22	mentimeterについて質問： 発見された事象をどう評価するか（「改善要望を求めるか」「情報提供に留めるか」「幹部報告対象か」など）は、担当した監査人の価値観によるところが大きく、監査組織として同じレベルを保つのが難しいと感じている。mentimeterを使って、内部の複数の監査人にこの重みづけを評価させて平均化することができるように考えた。このような用途に適するものか。	事前の設定が簡単で、瞬時に集計し、ビジュアライズできることが特徴ですので、Mentimeterの活用方法としては十分ありえるかと思えます。
23	リスク兆候、シナリオ、KRIの例を教えてください。	例えば、1度の経費について複数の証憑（領収書とカード明細など）で2度精算を行うというシナリオに対して、同じ使用日・金額での2回以上の経費精算というリスク兆候（KRI）がセットされます。

No.	頂いたご質問	Protiviti回答
24	情報がサービス提供企業に収集されているのではないかとリスクが導入の障害となっている。紹介のツールではどうか。	情報の取り扱いにつきましては、各ツールの情報取り扱い方針をご確認ください。例えば、弊社で導入支援を実施している内部監査ツールのHIGHBONDにつきましては、厳格な方針に則ってお客様の情報管理を実施しており、同意なく情報収集を行う事はございません。特殊な利用方法においては個人情報の取り扱い等のコンプライアンス要件を考慮する必要がありますので、別途ご相談ください。
25	ありがとうございました。参考になりました。次回は、往査に関して現地へ行けない場合、どのように対応したかの事例紹介がありますと非常に助かります。	コメント・提言ありがとうございます。次回のセミナーの中で検討させていただきます。現地訪問を必要としない監査として、データを活用した監査を実施されている事例等のご紹介が可能です。弊社営業担当にお気軽にご相談ください。
26	世の中でAgile監査が拡大していますが、内部監査において、「Agile監査で行った」という但し書きをつけて内部監査人が保証する場合の価値は認められるのかどうか。世の中の傾向を知りたいと思います。	多くの企業ではAgile監査の実践まで到達していないのが現状で、Agile監査とは何かを知る段階かと思えます。内部監査の価値を決めるのは内部監査のステークホルダーです。Agile監査は手段であり、内部監査のステークホルダーは手段よりも監査から提供される結果や情報に価値を感じていると思われれます。